

ロンドンオリンピック2012 大村朱澄選手「壮行会」・「現地レポート」

7月16日、本町ならではの心温まる、町民一体となった「大村朱澄(あすみ)選手壮行会」が行われた。300人を超す町民や関係者が詰め掛け、本町文化会館は超満員となり熱気と興奮に包まれた。オリンピック予選は8月7日、現地イトンドーニーのカヌー競技場で行われ、惜しくも予選敗退となったが、本町からは祖父をはじめとする町民が熱い声援を送った。【大村朱澄選手(22歳)＝本町田代区出身、早稲田大】



大きな拍手と歓声で沸く

7月16日、午後6時30分。本町文化会館ホールは、大村朱澄選手を待ち受ける、300人を超す町民と報道関係者で、溢れんばかりに埋め尽くされていました。大村朱澄選手が国旗・町旗・五輪旗・B&G海洋センター旗・川根高校旗とともに入場すると、大きな拍手と歓声が上がりました。

小学校時代からの夢が現実に

佐藤町長は「会場の熱気が大村朱澄選手に対する、地域の期待となつて現れている。小学校時代から連日接岨湖で練習し、オリンピックに出場するという夢が実現した。アスリートにとっては夢のまた夢の話。町民の皆さんの期待に応えられるよう頑張つてほしい」と激励しました。

また、大村朱澄選手の後輩に当たる桜保育園児、本川根小学校児童、本川根中学校生徒、川根高校カヌー部員から、それぞれ手作りの心温まる、趣向を凝らした激励のメッセージや花束が贈られました。

会場の心が一つになった

この日、一番の盛り上がり

見せたのが、大村朱澄選手がホールの通路をくまなく回り、あいさつをする「みんなを激励しましヨウ」。地元を愛し、周囲への感謝の気持ちを常に持っている大村朱澄選手だけに、集まってくれた町民に対し、丁寧にあいさつをしていたのがとても印象的でした。オリンピックという世界の大舞台に向かっていく、大村朱澄選手と町民の心が一つになった瞬間でした。

私は幸せ者、皆さんの応援が力に

大村朱澄選手は「町民の皆さまから、たくさんパワーをいただきました。カヌーを始めて15年になります。オリンピック出場という小学生からの夢が一つかなえられたのも、家族の支えはもちろん、町民の皆さまからの温かい応援があったからです。私は幸せ者です。この町でカヌーと出会い、皆さまと出会うことができました。オリンピック決勝に勝ち上がることで、そしてメダルを獲得することが、私の次の目標です。万全の準備をし、本番では持っている力を出し切りたい」と力強い抱負を述べました。

最後に、超満員となった会場全員の、万歳三唱で活躍を願いました。(写真)



①入場、②桜保育園、③本川根小、④本川根中、⑤川根高校、⑥赤石太鼓(大村選手)、⑦赤石太鼓保存会、⑧⑨⑩みんなで激励しまじョウのワンシーン(以上、壮行会)、⑪オリンピック予選の8/7、大村選手の祖父・道久さん(写真前列右から2番目=86歳)を囲んで、インターネット中継により声援を送った。

〔町長のロンドンレポート〕

大村朱澄選手後援会長としてロンドンオリンピックピッ

ク・カヌースプリント競技の応援に参加させていただきました。ロンドンの夏は、蒸し暑い日本とは違って、涼しいというよりも肌寒くさえ感じました。予選当日の8月7日、早めに朝食を済ませ、地下鉄を乗り継ぎ、シャトルバスで会場へ。ロンドン郊外にあるイートンドーニーのカヌー競技場は周辺に、王室の土地や施設もあるらしく、広大な敷地に設けられた素晴らしい競技場で、オリンピックにふさわしい雰囲気も備えた会場でした。

予選2組でスタートした北本・大村選手のペアは、スタートして間もなくから水をあげられ、後半の追い上げを期待しましたが、差を埋められずに6着。予選敗退となりました。二人の表情など観覧席からはうかがうことができませんでしたが、大村選手にとっては不本意な結果となり悔しかったことでしょう。この悔しさが次へのバネとなります。

残念な結果となりましたが、次の勝利にとって無駄な敗北はありません。大村選手はまだ発展途上、これからの活躍が期待される選手です。

今回の経験から学ぶことは多し、筋力をつけ、技を磨き、タフな精神力を養って上を目指していただきたいと思えます。

これまで温かい応援をしていただいた町民の皆さま、本当にありがとうございます。これからもご声援をよろしくお願いいたします。

川根本町長 佐藤公敏



▶壮行会で大村選手に目録を贈呈する佐藤町長

夢の扉は開いたばかり メダルの夢、そして本町の希望とともに 大村朱澄選手の挑戦はリオへと続く

※次のオリンピックは、2016年のブラジル・リオデジャネイロで開催される。南米での開催は初めて。